

## 「地方創生」が地域に求めるもの



会代表・大津町議会議員  
佐藤真二

「地方創生」の動きがはじまりました。

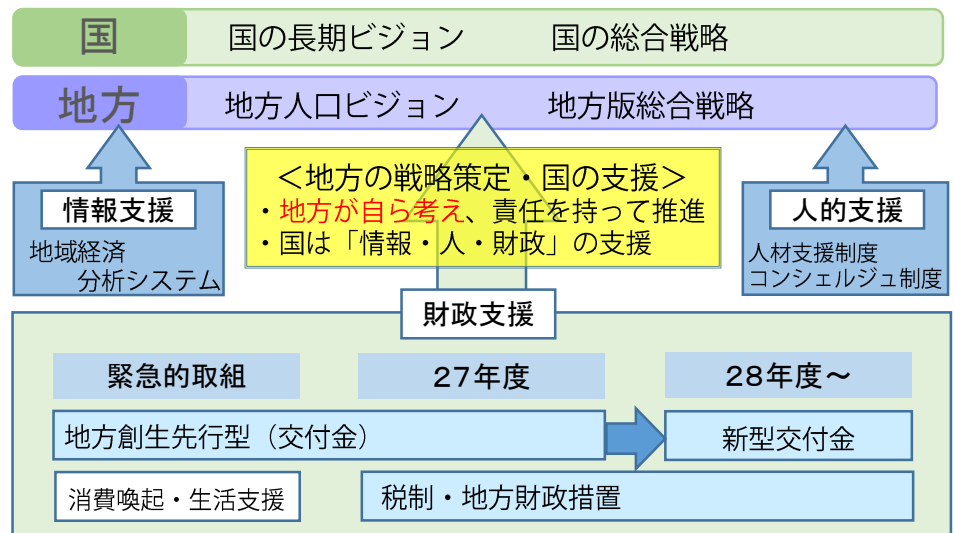
このまま人口減少が進むと、2060年の人口が国全体で8千700万人になってしまうといわれています。これを食い止め、1億人程度の人口を維持しよう、そのためには「地方」を「創生」しなければならない、というものです。

意地悪な見方で批判することもできますが、現実には地方の人口減少が進んでいるわけですから、そっぽを向くわけにもいきません。

### ▶ 国が示す「地方創生」の枠組み

国は右図のような枠組みで戦略を進めようとしています。  
・地方は自ら考え実行する  
・国はそれを支援することがポイントです。

地方は、人口ビジョンと総合戦略を作ることが起点となります。



### ▶ 地方が定める「総合戦略」～ 願いと知恵を～

この戦略策定をどのように行うのか。「地方が自ら考え・・・」という意味は極めて重要な意味を持っています。地方間の競争とも言える、地域の浮沈をかけた戦略です。地域の願いを汲み、知恵を結集して行わなければならない作業です。

しかし、あるコンサルティング会社は「自治体の人材だけでは対応が不可能であることは容易に考えられるため（中略）コンサルティング会社などが支援すると考えられる。」と言って、すでに営業モードに入っているようです。

確かに、専門的・技術的な部分（人口推計など）は外部の手を借りる必要があるでしょう。しかし「地方創生」の現場の最前線にいるのは地域住民です。この意見を聞き、戦略に反映しなければ「総合戦略」はコンサル会社の作文に終わってしまうのではないのでしょうか。

行政は住民の声を聞く必要がある。当たり前のことです。

右の写真は昨秋訪問した富山県氷見市の市長の執務机ですが、机の上に「廳（ちょう）」という字が書かれた色紙が置かれていました。

氷見市長執務室



この字は「屋根・建物」を表す「まだれ」の下に「聴く」という構造です。

訓読みでは「やくしょ」と読みます。昔は「県庁」も「県廳」とこの字を使っていました。つまり役所とはもともと「聴く場所」だということです。

## ▶ 「広聴」とは

「広聴」という言葉があります。辞書では「行政機関などが、広く一般の人の意見や要望などを聞くこと。」とされています。要望や苦情を聴くという狭い意味ではなく、「まちづくりの方向性」や「町の事業・施策についてどう考えるか」について幅広く、多くの意見を集めるための取組です。

しかし意見を聞くだけが広聴とは言えません。

例えば、シンクタンク神奈川は広聴を「**住民の声を集め、住民の生の真意を探るための分析をしようで、政策に反映する。**」と定義しています。

こうした意味で「広聴」は政策決定の基礎となる重要な役割をもっています。

## ▶ 広聴はきちんと行われているか

この大切な「広聴」、大津町ではきちんと出来ているのか。

年1回の「まちづくりアンケート」や「〇〇審議会、△△協議会」等での議論、ごく稀に申し訳程度に行われる「パブリックコメント」などがそれにあたるとすればあまりにも不足していると言わざるを得ません。

町行政には、ある業務をどの部署が行うかを定める事務分掌という仕組みがあります。しかし、大津町ではこの事務分掌に「広聴」という業務は定められていません。近隣市町ではきちんと「広聴」が位置づけられています。（下表）

まずは「広聴」が町の大切な仕事であることを認識することが必要ではないでしょうか。

	合志市	菊陽町	菊池市	大津町
条例名	合志市部設置条例	菊陽町部設置条例	菊池市部設置条例	大津町部設置条例
条・見出し	第3条(事務分掌)	第2条(事務分掌)	第2条(事務分掌)	第2条(事務分掌)
所管部	政策部	総務部	政策企画部	総務部
条文	(4) 広報および <b>広聴</b> に関すること	(8) 統計および <b>広報・広聴</b> に関すること	(3) 広報 <b>広聴</b> に関すること	(2) 広報および統計に関する事項

# 保育料、これでいいの？

子ども子育て支援新制度の実施により、新制度に移行する幼稚園・保育園等の利用料が変わります。前号では公立幼稚園の利用料の問題点を指摘しましたが、今回は私立保育園の問題を取り上げます。

## ▶ 国の意図とは異なる値上げ、町負担の軽減が目的？

3歳児、保育標準時間（11時間まで）を例に比較してみます。（下表参照）  
推定年収470万円以上の層では2000円～4000円の値上げとなっています。

旧制度		推定年収	国が定める 基準額	町が定める 保育料額	利用者 負担割合
生活保護被保護			0	0	-
町民税	非課税	～250万円	6,000	6,000	100%
	均等割のみ	～330万円	16,500	11,000	67%
	所得割あり			14,000	85%
所得税	7,000円未満	～470万円	27,000	18,000	67%
	40,000円未満			23,000	85%
	63,000円未満	～640万円	41,500	26,000	63%
	103,000円未満				65%
	413,000円未満	～930万円	58,000	27,000	47%
	734,000円未満	～1130万円	77,000		35%
	734,000円以上	1130万円～	101,000	30,000	30%

新制度		推定年収	国が定める 基準額	町が定める 保育料額	利用者 負担割合
生活保護被保護			0	0	
町民税	非課税	～260万円	6,000	6,000	100%
	均等割のみ	～330万円	16,500	11,000	67%
	40,000円未満			13,000	79%
	48,600円未満			14,000	85%
	72,800円未満	～470万円	27,000	18,000	67%
	97,000円未満			23,000	85%
	133,000円未満	～640万円	41,500	28,000	67%
	169,000円未満			29,000	70%
	235,000円未満	～930万円	58,000	30,000	52%
	301,000円未満			31,000	53%
	397,000円未満	～1130万円	77,000	32,000	42%
	397,000円以上	1130万円～	101,000	34,000	34%

国は「新制度においても利用者負担は同程度とする」として、国が定める基準額を変更していません。しかし大津町においては値上げが行われています。

国の基準額は上限額であり、国基準額と町の利用料の差額は町が負担することとなっています。結果として利用者の負担割合は大きくなり、町の負担は減少しています。

子育て支援の充実を目的とした制度変更でありながら利用者負担が大きくなることにはたいへん違和感があります。

## ▶ 近隣市町との比較は

	大津町	菊陽町	合志市	菊池市
保育標準時間	100%	105%	94%	93%
保育短時間	100%	95%	94%	72%
標準時間と短時間の差	-1.7%	-13%	-2%	-27%

（3歳児の保育料を階層別に比較し全階層の比を単純平均）

近隣3市町との3歳児の保育料を大津町を100%としたときの割合で比較してみます。

保育標準時間では菊陽町が約5%高く、合志市・菊池市では約6～7%安くなっています。

保育短時間（8時間まで）を見ると他の3市町は約5～27%安くなっていて大津町が最も高くなっています。また標準時間と短時間の差は大津町のマイナス1.7%程度対し菊陽町ではマイナス13% 菊池市ではマイナス27%と大きな差をつけています。

町は議会での審議の中で「利用料は必要に応じて見直す」と言っています。「必要に応じて」の意図は明確ではありませんが、今後も幼稚園・保育園ともに見直しを求めていきたいと思えます。

## お知らせ

### 「休日議会」が開催されます!

6月定例会の一般質問を「休日議会」として土曜日と日曜日に実施することになりました。議会を身近に感じていただくための県内初の試みです。ぜひ傍聴においでください。

**期日** 平成27年6月13・14日(土・日)

**内容** 6月定例会一般質問

**時間** 午前10時から(通常時)

時間は質問者の数により変更になる場合があります。

## 休日議会と一般質問

### ▶ 休日議会の意義

統一地方選の報道の中で「誰に投票したらいいかわからない」「議員(候補者)がどんな人かわからない」「議会が何をしているかわからない」といった声が多く聞かれました。それを受けた論説でも、住民の議会への関心の低さ、地方議会の存在感の薄さが指摘されています。

そのため、住民と議会を近づけようとするさまざまな取り組みが行われており、その一つが休日・夜間議会です。住民による議会のチェックの機会でもあります。

### ▶ 一般質問とは

一般質問は、議員が町の行財政全般について執行部に質問し考えを聞くものです。議会での「質疑」は議案に対するものに限られますが、「質問」はそれに縛られないため内容も広範囲にわたり議員からの提案なども含まれます。

また各議員の価値観や考え方、個性などが表れるものでもあり、一般質問の傍聴は議員をチェックする機会でもあります。



## 次に叩く一回で、その壁は破れるかもしれない (松岡修造)

話題となった日めくりカレンダー「まいにち、修造!」を(妻が)買った。日めくりで一日一言の「修造語録」が載っている中の今日(21日)の言葉。

修造氏は1967年生まれで、地球温暖化が注目されはじめたのが1970年代であることから、地球温暖化の原因ではないかとの冗談が生まれるほどの熱い人である。

誰しも様々なことがままならぬ日々を送っているとされる。(“誰しも”というのは難しい言葉だが「ままならぬ日々を送っている」人のことだから、きっと私のことを意味しているのだろう。)

そんな私のことだから目の前は常に壁だらけ、そしてその壁を破ってみたいと考えている。修造氏はそういう私を熱く応援してくれているのだ。次の一回で破れるかもしれないし、まだ数しれないほど叩き続けなければならないかもしれないがやり続けるしかない。

しかし考えてみれば、子どもの頃からずっと壁を叩き続けてきたような気がする。

残念なのは壁を叩くばかりで、壁ドンをする機会がなかったということだ。